

『坂城町平成の産業史』（長野県坂城町発刊）より一部改変して引用

Q：新薬研究についての考えは？

- 新薬の研究は相当厳しいため、精神的にも自分に打ち勝つことが大事です。急性白血病治療剤『ゾスパタ』の研究では、ご家族が白血病を患っている県外出身の研究者が、遠く離れた家族に思いを馳せながら長野県の寒い冬の中ずっと研究をしていました。ですから、やる気とか、そういう強い気持ちを持つことがとても重要です。研究者は一見スマートな頭のいい人という印象を持ちますが、その奥にある根性とか意地といったものが、最後にはものを言います。
- 薬は、モデルチェンジがありません。特許が切れたら、急に主要品目がなくなってしまう。ですから、もっとすごいことをやらないといけない。
- 弊社で新薬研究に携わる多くの方は長野県外出身者なので、その方々の生活圏を含めて仕事で活躍する場を提供することが使命です。
- アメリカは自由なことが言える社会です。アメリカでは『月並みなことを言うな。クレイジーアイデアを出せ。逆転の発想を示せ。』とよく言われました。彼らは突拍子もないアイデアを大事にします。その考え方を尊重して仕事に生かす必要があります。
- アジア人は農耕民族です。西洋人は狩猟・牧畜の民族ですね。日本人は、自分の田んぼから今年は米が1キロ取れたら、来年は1.1キロの米を取ろうという、改良的な発想

をします。ところが、欧米のカウボーイは他人が牛を連れて通った草原の後を追って、自分の牛を連れて行っても、牛に食べさせる草はもはやない。それならば誰も通っていない草原に行くしかない。こうした、根本的な発想の差があります。このように日本では改良型、欧米ではクレイジーアイデアのもたらすゲームチェンジャーが好まれる傾向があります。

- 製薬会社は今後さらに熾烈な競争が繰り広げられます。イノベーションを起こさないと生き残れません。次々と新薬を創り出すために、クレイジーアイデアを出し続けて、まだまだ暴れないといけませんね（笑）。

Q：ジェネリック医薬品については？

- 1960年代末の胃液で分解されずに腸に到達してから分解される「腸溶性コーティング」による国産初の『腸溶性製剤』の上市、2000年代初頭の口腔内で速やかに崩壊する「外部滑沢法」による『易溶錠』（現在の「口腔内速崩錠」のプロトタイプ）の上市、さらに2010年代初頭の手指で容易に分割できる『かわら錠』の上市などの独自製剤技術に加え、薬の原料である『原薬』を自社工場内で化学合成できるのが弊社の特徴です。このため他社では入手が難しい『原薬』のジェネリック医薬品を製造できるので「ニッチ」かつ「ブルーオーシャン」の製品を持つこともできます。